令和元年（2019 年）
6 月 25 日（火）
第3号

教育委員会たより

シャイニング

文責
伊平屋村教育委員会
金子 智彰

和

令和元年度 三校合同研修会 特別支援教育研修会

講話「子ども・保護者理解と関わり方」
実践研修「園児・児童・生徒をモデルとした自立活動の指導計画作成の仕方」

講師　県立総合教育センター特別支援教育班
主任研究主事　下地　直子

去る五月二十一日（火）「伊平屋村特別支援教育研修会」が、伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて開催されました。特別支援的見方での幼児・児童・生徒理解は、きめ細かな授業づくりや学級経営に大いに生かすことができるため、この「特別支援教育研修会」も「島発ち教育」につながる大変重要な研修会として位置づけ、毎年五月に実施しています。

今年は「教職員」を対象とし、「講話」と「実践研修」の二本柱で研修会を実施しました。

参加者は、教職員、村教育委員会職員等の計五十三名でした。

下地氏の講演は、「保護者理解」「保護者支援」等々でした。「保護者理解」では、保護者の話をしっかり聞き（傾聴）、よい面を伝えることを通した継続的関わりの具体的な支援方法や進め方、話し合いの場での教師の心構えなどのお話がありました。また、日常的な不適切な対応の事例は、私たちのこれまでの対応を振り返るよい機会にもなりました。

ところで、「傾聴」「共感」「受容」の三つのキーワードは、対応時の大切な教師の心構えとなるもので、学校現場における全教職員での共有のあり方を示唆するものでした。よって望ましい保護者理解や支援は教師への「信頼感」につながり、子ども・保護者・職員にとって学校が安心・安全で豊かな学びの場となっていくことでしょう。

【式次第】13：40 ～ 16：45

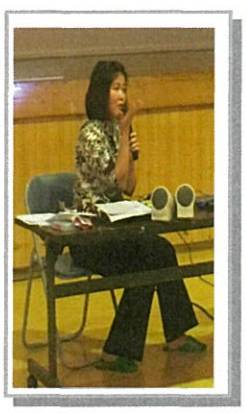
1　はじめの言葉
2　講師紹介　教育課長
3　講演会　下地　直子氏
　①講話
　②実践研修
4　質疑・応答
5　お礼のことば　仲村先生
6　おわりの言葉

後半の実践研修では、うまくいかないことやなかなかできない等の困り感のある子どもへのアプローチを考える「自立活動の指導計画作成」を行いました。一人ひとりに対し、根拠をもとにした学習・生活の充実に向け、自立活動の計画作成をグループで作成していきました。

自立活動ワークを完成させていく中、数名での様々な意見交換のおかげで、課題解決に対するアイデアと具体的なアプローチの方法が提案され、個に対応した指導内容設定にまでつなげることができました。

伊平屋村では、引き続き「あせらず」「じっくり」と学校・保護者・地域・行政が連携しながら、伊平屋村ならではの支援体制の機能化・実践を進めていきます。

結びになりますが、今回講演を引き受けて頂いた、下地直子氏にはこの場をお借りして、心より感謝申し上げます。



研修会感想（三校）

【伊平屋小】
○日々の保護者対応が下地先生の話す内容と合致していたので、このままの対応で子ども・保護者に寄り添い、子ども本人の気持ちや考えを常に共有しながら関わっていくことを大切にしたい。
○支援の第一歩は子ども理解。一つでも多く子どもの「できる」を増やし、達成感を味わわせることで自己肯定感を高められると感じた。

【野甫小中】
○教師以上に保護者の疑問や不安は大きく、継続的な関わりとタイミングがカギとなることを改めて学ばせていただいた。
○見過ごし、見落としはないか？最善の手立ては？と子ども・保護者の立場になって考える必要があると強く感じた。

【伊平屋中】
○支援計画を個別にたてることは、かなりの労力がいる。学校全体で、それこそ小中連携を強固にして村全体で取り組むことが急務である。
○自立活動の指導計画作成では、自分では気がつかない部分を知ることができ、うれしかった。保護者の気持ちに寄り添い、あの手、この手で頑張っていきたい。